

- 問1 古墳時代、朝鮮半島や中国から日本列島へ移り住んだ渡来人によって伝えられたもので、日本における記録や公文書作成の基礎となった文字を次の中から選びなさい。 (2019年 岡山県公立入試 類似)
1. カタカナ 2. 漢字 3. ローマ字 4. ひらがな
- 問2 5世紀頃、日本の王たちが中国の皇帝に使節を送った背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 鳥取県公立入試 類似)
1. 中国の皇帝から地位の承認を得ることで、朝鮮半島での軍事的外交関係を有利に進めたり、高度な技術を導入して統治を強固にするため。 2. 仏教を日本に広めるために、中国から高僧を招くとともに、寺院建築や経典などの進んだ文化を公的に導入するため。 3. 後漢の皇帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かり、九州北部における小国の連合を束ねる権威を確立するため。 4. 遣唐使を廃止することで大陸との交流を制限し、日本独自の国風文化を育むとともに、律令国家の形成を早めるため。
- 問3 熊本県に位置する前方後円墳である江田船山古墳からは、金象嵌（きんぞうがん）で文字が刻まれた鉄刀が出土しています。この鉄刀に「ワカタケル大王」の名が刻まれていたことは、当時の日本におけるどのような政治状況を証明するものとして重要視されていますか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
1. 縄文時代の交易ルートが、九州から関東までつながっていたこと 2. 大陸から伝わった仏教が、九州地方で最初期に受容されたこと 3. 九州地方に、近畿地方とは異なる独立した強力な国家が存在したこと 4. ヤマト王権の勢力が、九州地方にまで及んでいたこと
- 問4 4世紀から7世紀頃にかけて朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住した人々は、それまでの土器とは異なる、黒っぽくて硬い「須恵器」の製作技術や、文字としての「漢字」などを伝えました。このような人々を何と呼びますか。 (2026年 山形県公立入試 類似)
1. 防人 2. 渡来人 3. 弥生人 4. 縄文人
- 問5 巨大な前方後円墳が各地で盛んに造られていた古墳時代の5世紀ごろ、ヤマト王権の王たちは、自らの地位を国際的に認めさせるために中国の王朝へ使節を送りました。このとき、倭の五王が朝鮮半島での軍事的な指揮権などを認めてもらうために交渉を行った相手は、当時の中国のどの勢力ですか。 (2024年 栃木県公立入試 類似)
1. 隋 2. 唐 3. 中国の南朝 4. 漢
- 問6 徳島県と香川県を結ぶ道路の建設予定地周辺など、四国地方においても複数の「前方後円墳」を含む古墳群が確認されています。このように、近畿地方を拠点とする勢力が採用した墓の形式が全国各地へ広まった事実は、当時の政治状況についてどのようなことを示していますか。 (2023年 愛知県公立入試 類似)
1. 近畿地方を拠点とする大和政権の政治的な影響力が、地方へと及んでいたこと 2. 仏教の伝来により、古墳に代わって大規模な寺院が地方に建立され始めたこと 3. 多賀城を中心とした東北地方の勢力が、全国を統一する力を持っていたこと 4. 遣唐使によってもたらされた国風文化が、地方の豪族の間で流行していたこと
- 問7 埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には「獲加多支鹵大王」という称号が刻まれています。これと同様の称号が記された鉄刀が熊本県の江田船山古墳からも出土していることから推測できる、5世紀後半の日本の政治状況として最も適切な説明を選んでください。 (2021年 大阪府公立入試 類似)
1. 東北地方から九州地方まで、完全に統一された律令国家が成立していた。 2. 邪馬台国の卑弥呼による統治が、近畿地方を中心に安定していた。 3. 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。 4. 各地域の豪族が独自の王号を名乗り、中国の王朝と直接外交を行っていた。
- 問8 5世紀の古墳から出土する、甲冑（よろい・かぶと）を身にまとい、背中に矢を背負った武人の姿を模した土製品について、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 群馬県公立入試 類似)
1. 弥生土器と呼ばれ、大陸から伝わった金属器の使用方法を儀礼的に示している 2. 唐から伝来した仏教儀礼に基づき、寺院の門に配置される守護神を表している 3. 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている 4. 七支刀と呼ばれ、百済の王から贈られた最新の鉄製武器の威力を示している
- 問9 古墳時代の大仙古墳やその出土品について述べた文章として、正しいものを1つ選びなさい。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
1. 大仙古墳は前方後円墳と呼ばれる形状を持ち、周囲には埴輪が並べられた。 2. 大仙古墳からは、副葬品として縄文時代と同じ土偶が出土している。 3. 大仙古墳は弥生時代に造られた日本最大級のお墓である。 4. 大仙古墳などの副葬品には金属器は含まれず、土器のみが納められた。
- 問10 5世紀後半、現在の埼玉県にある稲荷山古墳と熊本県にある江田船山古墳から、金象嵌（きんぞうがん）で文字が刻まれた鉄剣や鉄刀が出土しました。これらの出土品に共通して刻まれていた人物の名と、そこから推測される当時のヤマト政権（大和政権）の状況として適切なものはどれですか。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
1. ワカタケル大王の名が刻まれており、ヤマト政権の勢力が九州北部から関東地方まで及んでいたことがわかる。 2. 中大兄皇子の名が刻まれており、律令に基づいた地方支配が関東や九州まで及んでいたことがわかる。 3. 卑弥呼の名が刻まれており、邪馬台国の勢力が西日本から東日本一帯に広がっていたことがわかる。 4. 聖徳太子の名が刻まれており、天皇を中心とした中央集権体制が全国で完成していたことがわかる。
- 問11 ヤマト王権が巨大な前方後円墳を築き、その周囲に武装した人物の像などの埴輪を並べたり、鉄剣に首長の称号を刻んだりした歴史的な背景として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 岡山県公立入試 類似)
1. 仏教を全国に広めるために、寺院の代わりとして巨大な墓を建立したため 2. 貴族による摂政・関白の政治を安定させるための儀式として行ったため 3. 大陸から伝わった稲作の技術を記念し、収穫を祝う祭祀の場とするため 4. 各地の豪族に対して、王権の強大な軍事力や政治的な支配力を示すため
- 問12 古墳時代における渡来人の移動と技術伝来が、当時の日本列島の社会に与えた影響について述べた文章として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 岩手県公立入試 類似)
1. 青銅器と鉄器が同時に伝わり、金属器を使った道具の製造が初めて行われた。 2. 大陸からの技術移転により、日本列島で初めて米作り（水稲耕作）が始まった。 3. 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。 4. 全国に国分寺や国分尼寺が建てられ、仏教を中心とした国家体制が完成した。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 漢字	古墳時代に大陸の進んだ技術や文化を持った人々（渡来人）が日本列島へ移住した際、儒教や仏教とともに伝えられたのが漢字です。これにより、それまで文字を持たなかった日本において、出来事の記録や政治的な文書の作成が可能となりました。ひらがなやカタカナは、後にこの漢字を崩したり、一部を取ったりすることで日本独自の文字として発展したものです。
問2	答え 1 中国の皇帝から地位の承認を得ることで、朝鮮半島での軍事的・外交関係を有利に進めたり、高度な技術を導入して統治を強固にするため。	5世紀の「倭の五王」は、中国の南朝へ繰り返し使節を派遣しました。当時の倭王は、朝鮮半島における軍事的な指揮権を含む称号を中国の皇帝から授かることで、国際的な地位を確立し、周辺諸国との外交を有利に進める狙いがありました。また、これに伴い鉄製武器の製造技術や須恵器などの新しい技術を大陸から導入し、国内の支配力を高めていきました。
問3	答え 4 ヤマト王権の勢力が、九州地方にまで及んでいたこと	5世紀後半のものとされる江田船山古墳の鉄刀には「ワカタケル大王（雄略天皇）」の名が刻まれており、これはヤマト王権（大和政権）の支配力が九州地方にまで浸透していたことを示す決定的な証拠となっています。同様の銘文を持つ鉄剣が埼玉県の稲荷山古墳からも出土しているため、当時の王権が関東から九州までの広範囲を統治下に置いていたことがわかります。
問4	答え 2 渡来人	4世紀から7世紀にかけて、大陸の戦乱を避けるなどの理由で日本列島に移り住んだ人々は、当時の日本にはなかった高度な技術や文化を伝えました。彼らが伝えた須恵器は、高温で焼くことができる穴窯（あながま）の技術を用いたもので、それまでの赤褐色の土器よりも硬い性質を持っていました。また、漢字の伝来は、その後の大和政権による記録や行政の仕組みを支える基盤となりました。
問5	答え 3 中国の南朝	古墳時代の5世紀、ヤマト王権（倭国）の「讃・珍・済・興・武」という5人の王（倭の五王）は、当時の中国で南側に成立していた「南朝」の諸王朝（宋など）へ使節を送りました。これは、中国の皇帝から称号を得ることで、国内での支配権を固めるとともに、朝鮮半島における政治的・軍事的な立場を他国に対して有利に進める狙いがありました。
問6	答え 1 近畿地方を拠点とする大和政権の政治的な影響力が、地方へと及んでいたこと	古墳時代、近畿地方に拠点を置いた大和政権（ヤマト王権）は、各地の豪族と政治的な同盟を結んだり、支配下に置いたりすることで勢力を拡大しました。前方後円墳という特定の形式の古墳が各地に築かれたことは、その地域の豪族が大和政権の支配体制や序列に組み込まれたことを象徴しています。多賀城は奈良時代の東北経営の拠点であり、国風文化は平安時代の中期に発達した文化であるため、古墳時代の出来事とは異なります。
問7	答え 3 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。	遠く離れた埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳の両方から、同一の大王（ワカタケル大王）の名を記した遺物が出土したことは、その大王を中心とする大和政権の権威や支配力が、すでに関東から九州まで広範に及んでいたことを裏付ける有力な証拠となっています。
問8	答え 3 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている	古墳時代中期にあたる5世紀には、高句麗の南下による朝鮮半島の緊張状態が倭（日本）にも波及していました。古墳に副葬された武人などの人物埴輪は、当時の武具の構造を正確に伝えており、埋葬された豪族の軍事的な権威を誇示したり、死者の霊を守ったりする目的があったと考えられています。
問9	答え 1 大仙古墳は前方後円墳と呼ばれる形状を持ち、周囲には埴輪が並べられた。	大仙古墳は古墳時代に造られた日本最大の前方向後円墳であり、その周囲には埴輪が並べられました。土偶は縄文時代の遺物であり、古墳の副葬品には銅鏡や鉄剣などの金属器も含まれます。
問10	答え 1 ワカタケル大王の名が刻まれており、ヤマト政権の勢力が九州北部から関東地方まで及んでいたことがわかる。	埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳という、遠く離れた二つの地域から同一の王である「ワカタケル大王（雄略天皇）」の名を記した文字資料が出土したことは、当時の歴史を知る上で極めて重要です。この事実は、5世紀後半にはヤマト政権の政治的な支配力が、九州北部から関東地方にまで及ぶ広大なものになっていたことを裏付けています。この大王は、中国の歴史書『宋書』倭国伝に登場する「倭の五王」の一人である「武」と同一人物であると考えられています。
問11	答え 4 各地の豪族に対して、王権の強大な軍事力や政治的な支配力を示すため	古墳の巨大化や、武人などをかたどった埴輪の設置、そして「大王」という称号を刻んだ鉄剣を配ることは、ヤマト王権の優れた技術力や軍事的な権威を内外に示す目的がありました。これにより、各地の有力な豪族を自らの支配下に組み込み、連合政権としての基盤を固めていきました。
問12	答え 3 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。	古墳時代に朝鮮半島から渡来人が移住したことで、須恵器の製造技術に加えて漢字、儒教、仏教、機織などの高度な文化や技術が伝わり、日本の技術や生活文化が飛躍的に発展しました。